

文部科学省選定

(財) 全日本交通安全協会推薦

残された家族の悲しみ

— 交通事故のかげで —



● 27分

・お問合せ・お申込みは

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp

制作意図

車社会ニッポン。交通違反者の罰則規定が強化されているものの、新聞に交通事故の記事が載らない日はありません。スピード違反・居眠り運転・わき見運転・飲酒運転など事故のケースは様々です。車は便利な乗り物です。しかし、運転者の一瞬の判断ミス、気のゆるみが車を凶器に変えてしまうのです。

この作品は、運転者の家族、被害者の家族それぞれに焦点をあて、交通事故がもたらす悲劇をドラマで描きます。すべての交通事故撲滅を願って制作しました。違反者・取り消し処分者等の講習にご活用下さい。

あらすじ

◆浅岡智子のごく普通の主婦、夫・明之と小学校五年生の長男・智明、小学校三年生の長女・弘子の4人で暮らしている。智明は少年野球チームに入っており、智子はその役員をしている。その日はあいにくの雨で練習試合は中止になったが、役員5人が集まってチームの決算報告をする事になった。朝からの雨は夜には止んでいた。夕食の後、智子は役員のみんなが待つレストランへ向かった。智子が外出した後、急に冷え込んできたので、夫の明之はレストランへ智子のコートを届けに行った。それが、智子と明之が会った最後だった。

◆同じ頃、宴会で一人、酒をあおっている男がいた。パチンコ店店員の林田だった。林田はその日、宴会があるのを知りながら車で通勤していた。店長は、林田が車を置いて帰るのを条件に、宴会に参加させた。結局酔いつぶれた林田を、同僚たちが事務所へ運び、寝かせた。しかし、目が覚めた林田はふらつく足で事務所を出て、駐車場に止めてあった車に乗り走り去ったのだった。



◆会議も無事終わり、智子ら役員5人は家へ向かって歩いていた。そこへ、赤信号を無視した一台の車が智子たちに向かって突っ込んで行った。雨上がりの道に、悲鳴に続いて鈍い衝突音が響き渡った。智子の帰りを待つ浅岡家に、電話の音が鳴った。

智子の事故を知らせる電話だった。明之たちが病院にかけつけた時には、智子は帰らぬ人となっていた。救急車で運ばれる途中で息を引き取ったのだった。母の死を悟ったのか、子供たちは智子にすがりついて泣いた。明之は変わり果てた智子の姿を前に、呆然と立ち尽すだけだった。



◆飲酒運転で捕まったのは林田だった。罪名は「道路交通法違反、業務上過失致死罪」

「俺の人生、もう終わりだ…」取調室で頭を抱え取り乱す林田。「お前のせいで5人もの人が死んだんだぞ！自分のしたことを思い出してみろ！」取調官にそう言われ、思い出そうとするが、林田の記憶は宴会で飲んだあたりからあいまいだった。その後、目撃者の証言などから林田の罪名は「**危険運転致死罪**」に切替えられた。

◆智子がいなくなった浅岡家、明之は会社と家事、子供の世話と多忙な日々が続いていた。残された子供たちも掃除、洗濯など家事を分担してがんばっていた。ある晩、少年野球のビデオの中に、智子の姿を見つけた智明は画面を見つめ涙を浮かべた。「ママに会いたいよ…」

一方、林田の家族も事故によって崩壊してしまった。長女は高校を辞め働き始め、長男は世間体を気にして、家を出てしまった。世間の目は冷たかった。

「俺は本当に取り返しのつかない事をしてしまった。被害者の家族ばかりでなく、自分の家族もめちゃくちゃにしてしまった。」林田は面会に訪れた妻に向かって涙を流しながら詫びるのだった。

